

「農産・水産品等における運送状況 調査票」の実態調査報告

令和6年3月
トラック輸送における取引環境・労働時間改善
岡山県地方協議会

本調査の概要

調査の目的・経緯

令和6年4月より労働条件の向上等を図る働き方改革の一環として、トラックドライバーについて労働時間の上限規制(年960時間)が適用されるとともに、改善基準告示に定められる拘束時間等の基準も改正される。

NX総研が示した資料によると、不足する輸送能力の割合(地域別)では中国地方が最も高い20%に加え、不足する輸送能力の割合(発荷主別)では農産・水産品が最も高いと試算されている。

岡山県でもブドウや桃は「くだもの王国おかやま」を代表する特産品である一方、カキ類(養殖)も県を代表する水産品である。今後、岡山県の主要な農水産品の輸送にどのような影響を及ぼすのか実態把握のため、主として農産・水産品を輸送する運送事業者(30社程度)に労働時間等の調査を行い、2024年問題への対応に向けた検討材料とするべく、アンケート調査を実施した。

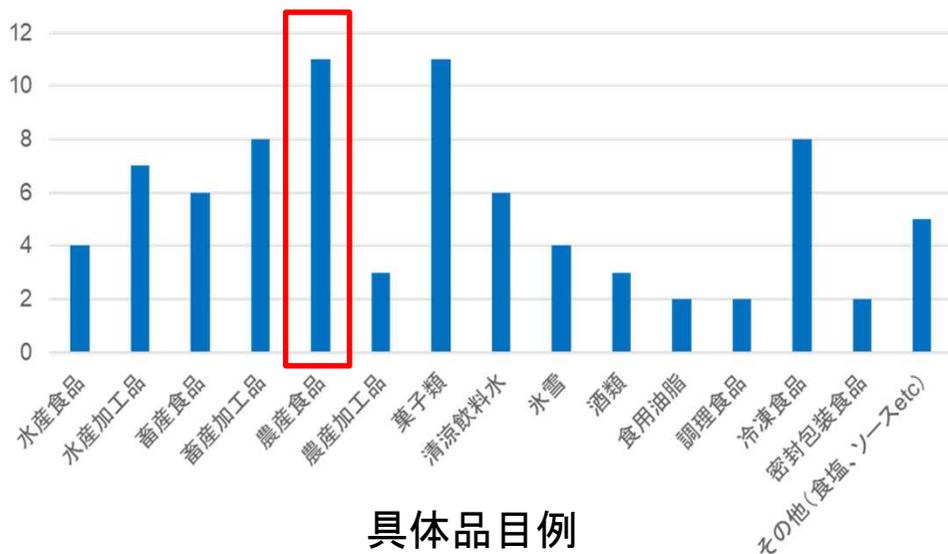
調査期間・方法

【期間】 令和5年12月22日～令和6年1月26日

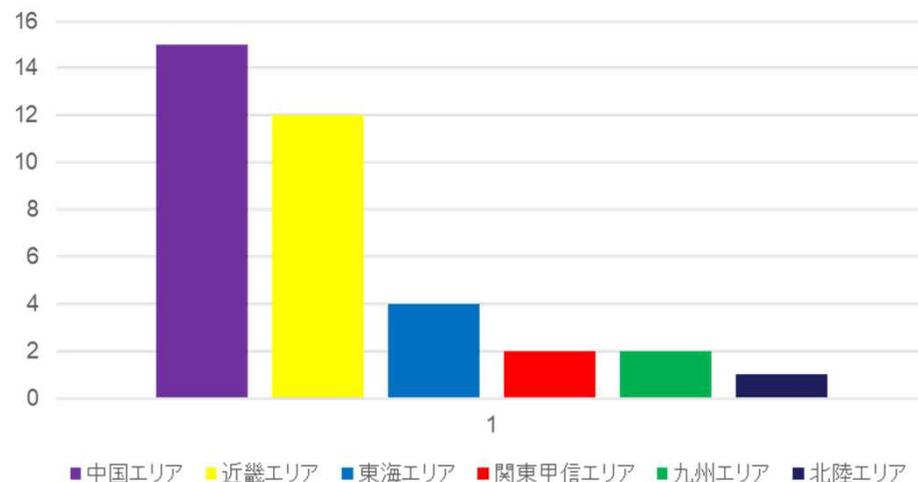
【方法】 各運送事業者へ調査票を郵送し、回答を依頼

本調査の結果について

輸送品目(複数回答)



主な輸送先(地域別回答)

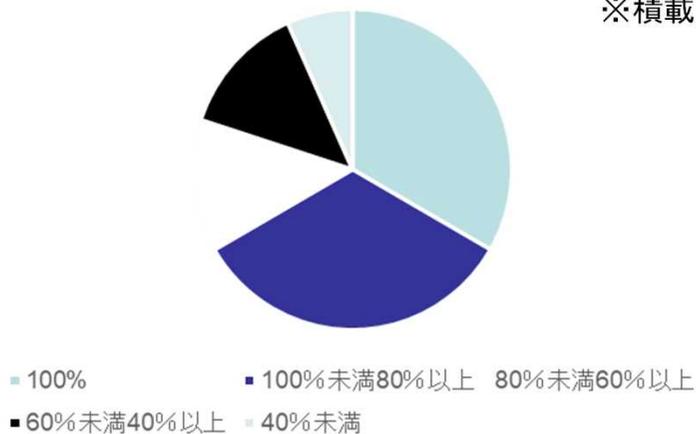


具体品目例

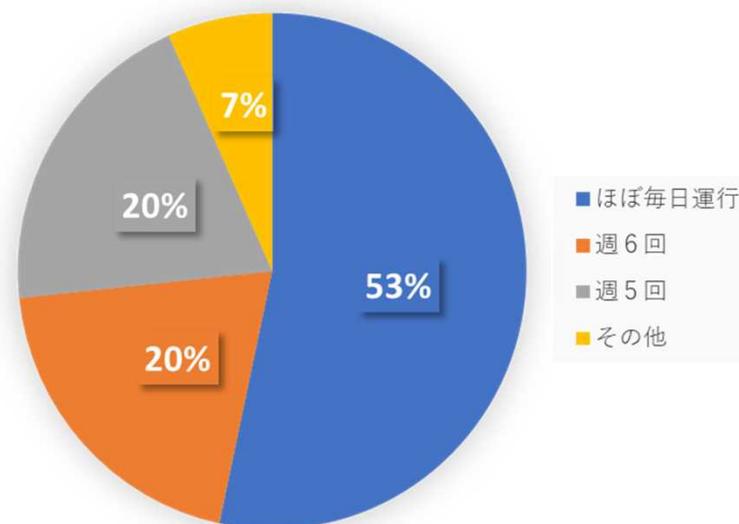
水産食品:魚類 貝類 甲殻類 タコ
 水産加工品:かつおぶし かまぼこ 魚肉ソーセージ しらす 昆布 さつま揚げ
 農産食品(野菜):キャベツ 白菜 きのこ なすび れんこん ピーマン キュウリ
 タマネギ もやし 米
 農産食品(くだもの):桃 ブドウ みかん リンゴ バナナ

鮮度等を保つべき輸送品の輸送割合

※積載トンベース



農産・水産品の運行頻度



運送の調査結果について(サンプル)

一運行の実態調査 関東便の例

運行時間※点呼点検時間除く	発地・着地	荷 物	特筆すべき事項
1日目 10:00~24:00	車庫発→ 瀬戸内市(積)→備前市日生(積) →豊洲市場(卸) (→船橋市・休息)	水産物	荷待ち時間合計3時間弱発生 
2日目 8:30~22:00	船橋市(積)→匝瑳市(積) (→神戸市・休息)	同上	
3日目 6:00~11:30	神戸市(積)→鏡野町(卸) (→帰庫)	同上	

「改善基準告示」の改正により、

- ・1日の拘束時間 原則13時間以内(上限15時間、14時間超えは週2回まで)
- ・1日の休息期間 継続11時間を基本とし、9時間を下回らない

この運行の問題点は。

1日の拘束時間14時間超えは週2回まで
↓
残りの4日間関東便は困難となる可能性
↓
これまでの回数で長距離運行ができない

休息時間を9時間以上とる必要あり
↓
2日目の荷積みの時間を後ろにずらす必要がある
↓
特に水産物は、鮮度に影響が出る可能性！

解決策として考えられること

- 運送事業者にて、運転者の確保・増員が必要
- 長距離が走れないので、中継輸送の検討

いずれにしても、効率的に荷積及び荷卸をすることで、ドライバーの拘束時間を短くすることが重要

今後の検討課題等

調査結果に基づく課題等について

改善基準告示の適用後は積み卸し先が関東圏など長時間の運行を要する区間は、荷物を運ぶことができない。



改善基準告示の労働時間を遵守するために労働力不足に向けた対策が必要

農産・水産市場において、1日に4時間を超える荷待ちなど運転時間以外での拘束時間のウエイトが大きい。



トラックGメンによる荷主・元請事業者への監視・指導の徹底

2024年問題への取組み(予定も含む)

- ・週6回の運行を週5回へ変更
- ・デジタコ導入による動態管理および拘束時間を把握
- ・荷役作業をパレット輸送に切り替え
- ・当日配送から翌日配送へ荷主と交渉
- ・顧客の精査、協力会社との共働
- ・新卒採用に向けて各学校を訪問し求人活動

行政への要望等

- ・待機時間について荷主へ言うべき
- ・ETC割引を24時間適用
- ・物価は上昇しているが、運送対価は据え置き、社員の生活を守るためにも労働時間の規制を緩めていただきたいのが本音
- ・運転手が休憩を取れるようにPAを増やしてほしい
- ・使命感・責任感をもってやっているが、法律に合わせるのが難しい部分もあり、悪者のように言われるのは不本意

今後の協議会を通じた取組について(提案事項)

運輸業での人手不足解消は喫緊の課題であり、今後の業界の継続的な発展のためにはトラックドライバーを職業の選択肢として認知してもらう必要がある。岡山県内のイベントなどで人材確保に向けたドライバー就活セミナーやトラックの試乗体験等を実施し、トラック運送業における理解促進・魅力発信に向けた取組を検討してみてもどうか。また、その際にアンケートを収集・分析して、どうすれば岡山県内でトラックドライバーを職業の選択肢として考えてもらえるか調査をしてみてもどうか。